

日 時  
授業場

児 童 6年  
授業者

## 1. 主題名

「その人のために」【内容項目：B（7）親切、思いやり※関連：D（22）よりよく生きる喜び】

## 2. ねらい

相手に寄り添い、自らの損得勘定を抜きにして、その人のために行動すること、それが自分の喜びに繋がることになることに気付くなど「親切・思いやり」に関わる自分自身の価値観を広げたり、よりよく生きようとする人間の強さなどを感じたりできるようにする。

＜教材名 「最後のおくり物」【出展：「どうとく」（光村図書）】＞

## 3. 児童観

この段階における子供たちは、自他を客観的に捉えることができるようになったり、相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像できるようになったりすると言われている。実際の子供たちも、常呂みどりの学校（本校の集団宿泊の行事）における活動にて、互いの役割を理解し、その上で援助が必要になるだろう人のフォローをしたり、よりよい時間をつくるための新たな役割を見いだしたりしながら支え合う姿が見られている。

一方で、相手の立場に立って考える前に自らがよいと思った行動をとる様子も見られる。相手の立場に立つことをとにかく強調し、自分自身が相手に対してどのように接し、対処することが相手のためになるかよく考え行動することを今後も引き続き指導していく必要がある。人間関係の深さの違いや意見の相違など、様々な見方・考え方に触れる経験を通して、人の心の奥深さ・難しさを理解した上で、だからこそ、よく考え、共に学び合う必要性を実感する子供たちになってもらいたい。

## 4. 教材観

本教材「最後のおくり物」は、俳優になることを夢見ていた「ロベータ」と、その夢を見ながら日々養成所に通うロベータの様子を見守る守衛の「ジョルジュじいさん」が主な登場人物の物語である（概要は以下の通り）。

- ①俳優を夢見ていたロベータは、毎日養成所の窓から練習の様子を見ていた（お金がなく通えない）。
- ②その様子を見た養成所の守衛であるジョルジュじいさんが、他の守衛にも話をして養成所の練習の様子を見ることを容認した。
- ③しばらく経って、ロベータのアパートのドアの前に、お金と手紙が置いてあり「養成所の月謝代に使ってください」との言葉を見て、ジョルジュじいさんに相談した上、養成所に通い始める。
- ④養成所に通ったロベータは、どんどん力をつけ、周りからも評価されるようになっていったが、突然、お金のおくり物が届かなくなってしまう、月謝代の未払いが積み重なり、悔しい思いをする。
- ⑤ある日の夜、アパートの玄関に見慣れた紙の包みが置いてあり、ジョルジュじいさんが雪の中、倒れている様子をロベータが発見する。ここで初めてお金を渡していたのはジョルジュじいさんだと気付く。
- ⑥倒れたジョルジュじいさんは、衰弱しきり治すことも難しい危篤状態であったため、ロベータが身寄りのないジョルジュじいさんに付き添うこととなった。
- ⑦ジョルジュじいさんはロベータへ語り掛けた後、しばらくして息を引き取った。その夜、ロベータはジョルジュじいさんからの最後の手紙を取り出し、もう一度その手紙を読んだ。その手紙の文字がなみだでかすんだ。

登場人物のジョルジュじいさんがロベータに損得勘定を抜きにして、相手に寄り添い、自分自身の

喜びに変えている様子（親切な行為）が描かれている。また、ロベータは、その親切な行為への心・思い（思いやり）には、物語の始めは気付けない状況にあり、物語の後半において、その思いやりを知ることとなる展開となっている。そのため、「親切」と「思いやり」という価値を、自分・相手の双方の「行動・行為」と「心」を結び付けながら様々な思いをもって考えることができる資料である。

## 5. 指導観

導入場面では、「最後のおくり物」とだけ板書し、「これは何だろう」という思いを子供から引き出す。その上で、「今日は、先生も一度読みましたが、『?』がありみんなと話し合いと思っています。それは、このタイトルにある『最後のおくり物』とは何なのかということです。」と言い、親切な人のイメージを出し合った後に教材を読むこととする。

その後、『最後のおくり物』とは何でしたか」と問い、様々な意見（例えば、「手紙」「お金」「思い」「やさしさ」など）を出し合った後に、『でも、ちょっとそれは・・・』と気になる点はないですか。』と問うことにする。ここでは、あえて「親切、思いやり」というフィルターを与えずに、自由に話を出し合った後に、「気になる点」で出てくるであろう「それは、やりすぎではないか」「逆に迷惑になるかもしれない」「なぜ、名前を書かなかったのか」など、『親切、思いやり』と言えるのかに近い、子供から生まれる疑問を出発点として本時を展開したい。

その際、『(相手にとって)よい行動・行為=親切』とは、言い切れない」という思いをもつ児童の様子から、親切と言えるか、言えないか、そもそも親切な人とはどういう人なのかについて話し合い、他者理解を図った上で、「ジョルジュじいさんは、誰にでも同じようにこのような行動をとったのかな」と「心」と「行為」に繋がる問いを設け、今一度「ジョルジュじいさんの心」に触れる場面を設けることとする。ジョルジュじいさんが、応援や励ましなどの行動と、一種行き過ぎかもしれないお金を渡す行動をとったのはなぜだったのかに加えて、体がきつくなるくらい大変な思いをしてロベータのために行動したこと、自分のことのように命をかけて応援する形をお金と手紙で表していたことがジョルジュじいさんにとっての喜びにもなっていたことなど、相手にとっても自分にとっても大切な行動になっていた点まで話し合いを通して引き出していきたい。また、必要に応じて、その行動・行為が、ロベータ（相手）にとってどう影響したのか、そのおかげでロベータの人生が動き始めたことを理解した上で、「ロベータの涙の意味」を考える時間を設けるなどして双方の影響についてもまとめていく。「ロベータの涙」には、過去の後悔や、現在の大切な人を亡くした悲しみ、未来に向けて励ましてくれた人の心を胸に頑張ろうとする決意などが込められているはずであり、そのことを考えることを通して、ジョルジュじいさんの行動・行為・心が相手（ロベータ）に届いていることに触れさせたい。

最後に、「今日は『親切かどうか』について話し合ってきましたが、『最後のおくり物』は何か、みなさんはどう捉えましたか。今日みなさんから出てきた言葉を使って自分なりにまとめてみましょう。」と子供たちに投げかけ、自由に道徳ノートへ記述する時間をとることとする。その記述は発表してもらい、納得できることについては大きな拍手を送ることを約束として全体交流を図る。全体交流を図った後に、もう一度、書く時間を設け、「そう思った理由や、自分自身の生活に生かしたいことなどがあれば、それも書いてください。」と伝えて授業を終えることとする。以上のような働きかけを通して、①自ら疑問点を見いだす姿、②親切に関わる議論を通して、相手のために行動することのよさについて話し合う姿などを引き出し、①親切とは、みんなに同じようにできるものではないからこそ、その相手のことをよく考えて行動する必要があること、②相手のために一生懸命になれることが素晴らしいことなどに気付いてもらえるようにしたい。

## 6. 本時のねらい

ロベータに対するジョルジュじいさんの行動が「親切」なのかどうか、「最後のおくり物」と何かなどについて考え議論することを通して、自らの損得勘定を抜きにして相手のために行動すること、それが自分の喜びに繋がることになることに気づき、相手をよく知り、尊重し、その人に対して思いやりをもとうとする心情を育てる。

## 7. 本時のデザイン

○子供の学習活動・教師の働きかけ (●発問、▲補助発問、■指示・説明)	◆留意点 ※評価
<p>○1. 教材を読む(「最後のおくり物」か何か考えながら読む)。</p>	
<p>・最後のおくり物って何だろう ・いつもお世話になっている人に渡す ・親戚、知り合いに贈る ・いろいろな場面で助けてくれた人に渡す</p> <p>○2. 資料の中から見つけた「最後のおくり物」について意見を出し合い、考え方のズレを確認する。</p>	<p>◆すぐにタイトルを板書し、そこからすぐに読み聞かせさせる。その際、道徳ノートに「最後のおくり物」を記述してもらう。</p> <p>◆自分の考えを率直に出し合えるようにする。</p> <p>◆時折、「誰かのために何かしたいけど、迷惑かもなって行動しないで様子を見ることはあるかな」など自分の生活場面と関わる問いかけをする。</p> <p>◆必要に応じて「本当に『親切、思いやり』と言える?その理由は?」と問い返す。</p>
<p>・「手紙・お金」だと思う。 ・「やさしさ」と言えるんじゃないかな。 ・ジョルジュじいさんの「思い」。 ・「夢」を繋げる「思いやり」。 ・たしかに「おくり物」ではあるけど... ※そこまでしてしまうのは...。他の支え方もあったのではないかな...</p> <p>○3. 「親切」について意見を出し合う。</p>	<p>◆必要に応じて、「もし、他の助け方だったら、ロベータはどうなっていたかな」など、比較検討したり、立場を変えたりする問い返しをする。</p> <p>◆考えを整理するために、適宜ペアトークを入れる。</p> <p>◆必要に応じて、「やはりお金を送らない形の方がよかったのではないかと問い返し、それでも何かしたい思いになっていたことに気付かせる。また、苦しい思いをしても、ジョルジュじいさんにとっても喜びとなっていたことなどの発言が出た場合、板書しておく。</p> <p>◆短い時間でもノートに記述する時間をとり、必要に応じて発表するなど交流する場面を設定する。</p>
<p>・「手紙・お金」だと思う。 ・「やさしさ」と言えるんじゃないかな。 ・ジョルジュじいさんの「思い」。 ・「夢」を繋げる「思いやり」。 ・たしかに「おくり物」ではあるけど... ※ここまでしてしまうのは...。他の支え方もあったのではないかな...</p> <p>●「最後のおくり物」というタイトルです。おくり物を渡す相手、もらう相手はどんな人ですか。 ・「最後のおくり物」「親切、思いやり」に関わるキーワードを授業の始めの段階として板書しておくことで、捉え方の変容が見えるようにする。</p> <p>●「最後のおくり物」とは何でしたか。 ・ペアトークを入れて、ノートに記述してもらう。 ・実際の「もの」と「親切、思いやり」につながる「こと」に分けて、発言を板書していく。 ●「親切な人」とはどういう人と言えますか?</p> <p>●ジョルジュじいさんは親切と言えますか。なぜ、親切なのですか。 ▲「では、お金を届けられなくなれば、親切ではなくなるということですね。」と問い返ししながら、どうしてそこまでできるのかを考える。</p>	<p>◆必要に応じて、「もし、他の助け方だったら、ロベータはどうなっていたかな」など、比較検討したり、立場を変えたりする問い返しをする。</p> <p>◆考えを整理するために、適宜ペアトークを入れる。</p> <p>◆必要に応じて、「やはりお金を送らない形の方がよかったのではないかと問い返し、それでも何かしたい思いになっていたことに気付かせる。また、苦しい思いをしても、ジョルジュじいさんにとっても喜びとなっていたことなどの発言が出た場合、板書しておく。</p> <p>◆短い時間でもノートに記述する時間をとり、必要に応じて発表するなど交流する場面を設定する。</p>
<p>ジョルジュじいさんは、他に困っている人がいても同じような行動をとったのかな?</p> <p>・すべての人を助けることはできない。そんなこととしては自分が何もできなくなる。▲誰かのために優しくすることが親切だと話している人もいたけど? ・ロベータのように同じ夢を見て努力している人だから助けた。▲他に困っている人がいても助けるとは限らない?そんなジョルジュじいさんは「親切な人」? ・その人のためになることをしたいと思って、無理して働いた。その夢を託すことでジョルジュじいさんも幸せな気持ちになった。▲では、名前を教えてお金を渡してあげてもよかったのではないかな。応援してくれる人がわかれば頑張る気持ちも生まれるのでは? ・ロベータは、知らなかったけど夢を叶えようとするのができたし、ジョルジュじいさんが亡くなる直前に聞いたから、より親切な人だと感じた。▲お金が送られない状況になるなら始めからお金を送るのはやめておけばよかったのでは?</p> <p>○4. ロベータとジョルジュじいさんの双方の立場の心の中を想像し、「最後のおくり物」とは何かを考える(本時の振り返りの時間)。</p>	<p>◆必要に応じて、「もし、他の助け方だったら、ロベータはどうなっていたかな」など、比較検討したり、立場を変えたりする問い返しをする。</p> <p>◆考えを整理するために、適宜ペアトークを入れる。</p> <p>◆必要に応じて、「やはりお金を送らない形の方がよかったのではないかと問い返し、それでも何かしたい思いになっていたことに気付かせる。また、苦しい思いをしても、ジョルジュじいさんにとっても喜びとなっていたことなどの発言が出た場合、板書しておく。</p> <p>◆短い時間でもノートに記述する時間をとり、必要に応じて発表するなど交流する場面を設定する。</p>
<p>・同じ夢をもつロベータに対して、自分にできることを考えて行動していた。 ・ロベータにとって名前を言わないでくれた方が心配せずに集中できたから良かった。 ・けれど、ロベータは言ってもらえた方がよかったかもしれないと思う。</p> <p>●ジョルジュじいさんは親切なやさしい人ということでもいいですか? ▲ロベータにとっては? ●「最後のおくり物」とは、何だと思えますか。 ■この一時間で使ってきた言葉を思い出しながら自分なりにまとめてください。</p> <p>○5. 振り返りの交流し、最後に自分の考えたことをノートに記述する。 ■「最後のおくり物」とは何か、ノートにまとめてください。</p>	<p>◆必要に応じて、「もし、他の助け方だったら、ロベータはどうなっていたかな」など、比較検討したり、立場を変えたりする問い返しをする。</p> <p>◆考えを整理するために、適宜ペアトークを入れる。</p> <p>◆必要に応じて、「やはりお金を送らない形の方がよかったのではないかと問い返し、それでも何かしたい思いになっていたことに気付かせる。また、苦しい思いをしても、ジョルジュじいさんにとっても喜びとなっていたことなどの発言が出た場合、板書しておく。</p> <p>◆短い時間でもノートに記述する時間をとり、必要に応じて発表するなど交流する場面を設定する。</p>
<p>・手紙やお金はもちろん、ジョルジュじいさんができる最大限のサポート。 ・もしかしたら、ロベータの未来がジョルジュじいさんに対するおくりものかもしれない。 ・相手のために頑張れることが大切であり、親切なんだと思う。</p> <p>◆自分なりの言葉で最後にまとめられるようにする。</p> <p>◆自分の生活に生かしたいことがあれば追記するよう指示する。</p>	<p>◆必要に応じて、「もし、他の助け方だったら、ロベータはどうなっていたかな」など、比較検討したり、立場を変えたりする問い返しをする。</p> <p>◆考えを整理するために、適宜ペアトークを入れる。</p> <p>◆必要に応じて、「やはりお金を送らない形の方がよかったのではないかと問い返し、それでも何かしたい思いになっていたことに気付かせる。また、苦しい思いをしても、ジョルジュじいさんにとっても喜びとなっていたことなどの発言が出た場合、板書しておく。</p> <p>◆短い時間でもノートに記述する時間をとり、必要に応じて発表するなど交流する場面を設定する。</p>

※「親切」について、誰にでも同じ行動ができるようなものではなく、相手の立場に立って考え生まれてくるものという点を理解し、相手に応じて自分にできることを一生懸命考えることは意味のあることだと感じることが出来る(上記のように自己の考え方の変容が生まれているかどうか発言・ノート等で観察する)。